

平和学習の成果を絵に託す

1月31日 平和首長会議が実施した『子どもたちによる〃平和なまち、絵画コンテスト2023（11歳～15歳の部）』で、優秀賞を受賞した井上珠宇さん（大竹中2）に入山市長から受賞が伝達されました。井上さんは「小中学校の平和学習で学んだことを思い描きました」と喜びの声を聞かせてくれました。



1親も夢中になるたこあげです2高く舞うたこを見上げます3「たこくり教室」で作ったたこ4親子で息を合わせて5トロフィーと賞状を手にしてうれしそうな重村くん。

2月12日 青少年育成市民会議主催で、自作のたこで滞空時間を競う「手づくりたこあげ大会」が、晴海臨海公園で幼児・小学生16人が参加して行われました。子どもたちが思い思いに描いた人気キャラクターや干支などの力作が青空に映えます。練習時は風が弱く苦戦していたようですが、競技開始のころには海からの風が吹き始め、親子で風を読みながら天高くたこを舞い揚げられます。小学校高学年の部1位の重村統真くん（小方小5）は「風によって糸を短くしたり伸ばしたり、工夫して揚げました」と喜びの声を聞かせてくれました。

毎月第3
土曜日は

おたけ水産
GOGO市
ごごいち

獲れたての地元の魚を
そろえております

とき 3月16日(出) 9時30分～
ところ 「たいたいこんぼ」
(くば漁業協同組合内施設
玖波3丁目8番13号)
※来場者の状況により
時間は変更になる
ことがあります。

問い合わせ おたけ水産GOGO市実行委員会(くば漁業協同組合内) ☎57-7034



1月21日 総合市民会館・ギャラリーおおたけで開催された「新春児童生徒書き初め大会」には、約60人の参加がありました。開催のあいさつで「近年はスマホが多く、書いたものを見てもらう機会が少ない。しかし、書いたものは人に感動を与えられると思います。この伝統を絶やさないでほしい」と年々少なくなる参加者に呼びかける三浦洋二実行委員長です。開始直後、学年などごとに用意された課題の文字とにらめっこ。トメやハライなどを確認して早速筆を走らせます。50分という限られた時間の中で集中力を切らすことなく、みな一筆一筆を大切に作品を書き上げました。書道を5年習っているという升谷詩乃さん（大野中1年）は毛筆で“夢の実現”という文字に挑戦。「こういうふうに見られながら、みんなと一緒に空間で書き初めができる機会は少ないので、文化に触れられた気がした。(和紙は) いつもと違うけど、なめらかで書きやすかった」と会場の雰囲気や、大竹手すき和紙の書き心地を堪能したようでした。



2月12日 おおたけ吹奏楽団第14回定期演奏会「バレンタインコンサート」が開かれたアゼリアホールは大盛況で、満席のため立って開演を待つ人たちがいっぱいいます。指揮者の谷川義次さん率いるおおたけ吹奏楽団の演奏で始まり、第2部は、大竹・小方中学校の吹奏楽部との合同演奏と、今年古希を迎える楽団員で大竹中学校卒業生の同級生3人組によるフルート三重奏。第3部では、大竹を代表するシンガーソングライターの二階堂和美さんが登場し、楽団の生演奏とともに、今年生誕100年を迎える大竹市出身の作詞家「石本美由起」さん作詞の「港町十三番地」や「大竹音頭」などの5曲を熱唱。谷川さんと二階堂さんのデュエットも見どころの一つでした。アンコールでは、二階堂さんの歌「大竹で生きている」を披露し、皆で歌ったり踊ったりと大盛り上がりで幕を下ろしました。二階堂さんの大ファンという広田ナミ子さんと、娘の優美子さん（岩国市）。「本当に感動、感激です。無料であそこまで見られるなんて」と感涙の様子。優美子さんと、「二階堂さんのパワーはもちろん、市民の方や学生さんの頑張りが素晴らしい」と感銘を受けたナミ子さんでした。

毎月第1
土曜日は

マロンの里
交流館
土曜市

とき 3月2日(出) 10時～
ところ マロンの里交流館
(栗谷町大栗林195-12)
地場農産物がそろっています。
ぜひお越しください。

問い合わせ マロンの里交流館
☎55-0055

冬の味覚に長蛇の列

ゆめタウン大竹

4年ぶりの『おおたけカキ水産まつり』は、前回までの晴海臨海公園から、ゆめタウン大竹の駐車場に移して開催されました。広島冬の風物詩のカキまつりも、今年はカキが生育不良のため各地で中止になる中、カキを確保、規模を縮小し開催にこぎつけたということです。開会の10時には既に焼きガキ、カキフライ、あら汁、魚介類販売などのブースに長蛇の列。市外からも新聞やネットニュースなどで開催を知り、訪れたという人もあり、熱々のカキに舌つづみを打っていました。

まつりの北林隆実行委員会会長は、「例年どおり大勢の方がお見えになり安心しました。日頃お世話になっている皆さんへの還元のつもりで開催しています」と喜びと感謝の言葉。店内では、カーブ観戦チケット40組分や特産品などが当たるビンゴゲームが行われ、内も外も熱気に包まれた日でした。



(右) カキは「海のミルク」と言われるように栄養たっぷり。(左) コロナ禍以来の開催となり、感謝のあいさつをする北林会長。



焼きガキ1000人分、カキめし、カキフライ、あら汁は約200人分が準備されました。



(右) 市内から来た東谷真輝さん、まどかさん夫妻は、ハマチとレモンのあら汁を仲良く堪能。さっぱりしておいしい。ほかにレモンの味がするようです。(左) 会場で能登半島地震の義援金募金活動の青年会議所。



(上) 店内はビンゴゲームで盛り上げられます。くじ引きで景品が決まります。(左) 新鮮なカキをパクリ。